

ServerView Suite
ServerView Operations Manager
補足情報

目次

■ はじめに	1
■ 対象バージョン	1
■ 補足情報	1
1 インストール要件	1
1.1 インストール前の設定確認	1
1.2 名前解決の設定	6
1.3 JRE のインストール	6
1.4 JRE の設定	7
1.5 リードオンリードメインコントローラへのインストール	7
1.6 Microsoft SQL Server 2000 SP3	7
1.7 監視対象サーバの台数	7
1.8 ネットワークポートの設定	7
1.9 OS 標準添付の PostgreSQL との共存	8
1.10 SELINUX	8
1.11 httpd サービス	8
2 インストール	8
2.1 ダウングレード	8
2.2 SQL Server の認証方式	8
2.3 ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール	8
3 アンインストール	9
3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定	9
3.2 アンインストールのキャンセル	9
3.3 cron に登録されるジョブ	9
4 サーバリストの管理	9
4.1 サーバ名に使える文字	9
4.2 マネジメントブレードの登録	10
4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定	10
4.4 サーバリストのエクスポート	10
4.5 電源制御実施時の必要パッケージ	10
5 アラームモニタ	11
5.1 SNMP バージョン	11
5.2 サーバ情報	11
6 アラーム設定	11
6.1 共通設定	11

6.2	SMTP AUTH によるメール送信	11
6.3	アラームルール名・アクション名	11
6.4	プログラム実行	11
7	サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)	12
7.1	非サポート項目	12
7.2	アーカイブデータの取得・出力	12
7.3	電源投入要因／電源切断要因	12
7.4	ファン回転率	12
7.5	ASR の設定	12
8	MIB インテグレータ	12
8.1	ネットワーク機器からのトラップ	12
8.2	トラップの記述形式	12
8.3	日本語表記を含む MIB ファイル	13
8.4	MIB ファイルの拡張子	13
8.5	登録した MIB ファイルの削除	13
8.6	登録した MIB ファイルの更新	13
9	パワーモニタ	14
9.1	電力表示対象サーバ	14
9.2	複数サーバの表示	14
10	その他	14
10.1	サーバ名および IP アドレス変更後の操作	14
10.2	SVOM サービス停止中の注意	15
10.3	関連ファイルの編集	15
10.4	JRE のアップデート	15
10.5	Network Node Manager との連携	15
10.6	イベントログのソース名	16
10.7	システムバックアップ	16
10.8	cron に登録されるジョブ	16
10.9	シスログのソース名	16

■ はじめに

本書は、ServerView Operations Manager V5 に関する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- ServerView Operations Manager V5.xx (sv-operations-mgr-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Linux (sv-install-linux-jp.pdf)
- ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows (sv-install-windows-jp.pdf)
- ServerView Event Manager (sv-event-mgr-jp.pdf)
- ServerView Inventory Manager (sv-inventory-mgr-jp.pdf)
- ServerView Threshold Manager (sv-threshold-mgr-jp.pdf)
- ServerView Archive Manager (sv-archive-jp.pdf)
- ServerView Performance Manager (sv-performance-jp.pdf)
- Base Configuration Wizard (sv-base-config-wizard-jp.pdf)
- ServerView Online Diagnostics (sv-onldiag-jp.pdf)
- PrimeCollect (sv-primecollect-jp.pdf)
- ServerView でのユーザ管理 (user-mgt-jp.pdf)

※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります

■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView Operations Manager(以下 SVOM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V5.00、V5.01、V5.10、V5.30、V5.50

■ 補足情報

1 インストール要件

▶ Windows/Linux 共通

1.1 インストール前の設定確認

SVOM をインストールし、動作する為に以下が設定されている必要があります。

No.	分類	チェック項目	設定値・設定方法
1	ウェブブラウザ	サポートバージョン	各バージョンのサポートブラウザは以下の通りです。 V5.00, V5.01, V5.10: Internet Explorer 7, 8 Mozilla Firefox 3.5, 3.6 V5.30, V5.50:

			Internet Explorer 7, 8, 9 Mozilla Firefox 3.6, 4.0
2	信頼済みサイト	Internet Explorer を使用して SVOM に接続する場合、「信頼済みサイト」に SVOM の URL を設定します。	<p>設定方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Internet Explorer を起動します。 2. 「ツール」→「インターネット オプション」の順に選択します 3. 「セキュリティ」タブをクリックして「ローカルインターネット」または「信頼済みサイト」を選択します。 4. 「サイト」をクリックして、ServerView Operations Manager がインストールされているサーバの URL を入力します。
3	プロキシ設定	プロキシサーバを経由して SVOM にアクセスすることはできません。プロキシサーバを経由しないよう、ウェブブラウザを設定します。	
4	32bit バージョン	OS が 64bit 版の場合も、32bit 版のウェブブラウザを使用します。 ただし、64bit 版 Linux 上から SVOM V5.30 以降にアクセスする場合には、64bit 版ウェブブラウザ (Firefox)を使用します。	
5	Java Runtime Environment (JRE)	サポートバージョン V5.00, V5.01, V5.10, V5.30: バージョン 6 のアップデート 18 以降の JRE がインストールされている必要があります。 V5.50: バージョン 6 のアップデート 25 以降の JRE がインストールされている必要があります。 バージョン 7 はサポートしていません。 JRE はサーバ側(SVOM をインストールするサーバ)と、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM にアクセスする端末)の両方にインストールされている必要があります。	
6	32/64bit バージョン	•Windows	

			<p>SVOMをインストールするサーバが 64bit 版である場合も、32bit 版の JRE をインストールします。</p> <p>・Linux</p> <p>SVOM のバージョンが V5.10 以前の場合、SVOM をインストールするサーバが 64bit 版である場合も、32bit 版の JRE をインストールします。</p> <p>SVOM のバージョンが V5.30 以降の場合、OS と同じアーキテクチャ(32bit には 32bit、64bit には 64bit) の JRE をインストールします。</p>
7	プラグインの設定 (Windowsのみ)	JRE がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れます。 ※この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。 1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。 2. 「詳細」タブを選択します。 3. 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。 4. 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。	
8	セキュリティの設定	JRE のセキュリティ設定を以下のように設定します。 1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。 2. 「詳細」タブを選択します。 3. 「設定」-「セキュリティ」-「混合コード（サンドボックス内実行 vs. 信頼済み）セキュリティ検証」を開きます。 4. 「有効 - 警告を表示せずに、保護をかけて実行する」にチェックします。	
9	シンボリックリンク (Linuxのみ)	Linux 上で、Firefox を使用して SVOM にアクセスする場合、プラグイン用のシンボリックリンクを作成する必要があります。 (参考):マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Linux」-「3.6	

			<p>必要条件」</p> <p>※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります。</p>
10	OS の環境設定	名前解決	<p>SVOM をインストールしたサーバの名前解決ができるように設定します。</p> <p>サーバ側(SVOM をインストールするサーバ)と、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM にアクセスする端末)の両方で、名前解決ができるように設定されている必要があります。</p> <p>(参考): 本書「1.2 名前解決の設定」</p>
11		ネットワークポート	<p>下記のマニュアル記事を参照して、SVOM が使用するネットワークポートを開放します。</p> <p>(参考):</p> <ul style="list-style-type: none"> •Windows の場合 マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows」-「3.2.1 起動および使用ポート」 •Linux の場合 マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Linux」-「3.2.1 呼び出しと使用ポート」 <p>※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります。</p> <p>※V5.50 では、Linux の場合のマニュアルの章名は「3.2.1 起動および使用ポート」です。</p>
12		ホスト名	<p>SVOM をインストールするサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)及び DNS サフィックスに、アンダースコア(“_”)が含まれていないことを確認します。</p> <p>ホスト名及び DNS サフィックスに、アンダースコアが含まれているサーバに、SVOM をインストールして使用することはできません。</p>
13		SQL インスタンス名 (Windows のみ)	SVOM に同梱の SQL Server を使用せずに、自身で用意した SQL Server を使用する場合、SQL Server

			<p>のバージョン及びエディションによって、使用可能なインスタンス名が異なります。</p> <p>(参考):マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation under Windows」—「3.6 SQL Server のインストール」</p> <p>※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります。</p> <p>※V5.50 では、章番号は「3.7」です。</p>
14	Active Directory		<p>事前に Active Directory がセットアップされて、SVOM をインストールするサーバから接続可能な状態になっていることを確認します。</p> <p>また、SVOM をインストールするサーバ自身に Active Directory をインストールする場合、SVOM よりも先に Active Directory をインストールします。</p> <p>Active Directory について設定の詳細は、マニュアル「ServerView でのユーザ管理」を参照してください。</p>
15	ネットワークドライブ		インストール先にネットワークドライブを指定することはできません。
16	ターミナルサーバ (Windows のみ)		<p>ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境では、通常の方法で SVOM をインストールすることはできません。</p> <p>(参考):本書「2.3 ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール」</p>
17	hosts ファイル (Linux のみ)		/etc/hosts ファイルで「localhost」が「127.0.0.1」に名前解決されるように設定します。
18	SELinux (Linux のみ)		SELinux を無効にします。
19	アップデートインストール	アップデート元のバージョン	V4.92.14 以降のバージョンからのみ、アップデートインストールすることができます。
20	監視対象サーバ	SNMP サービス	監視対象サーバ(ServerView Agents がインストールされたサーバ)の SNMP サービスを適宜設定します。

			(参考):マニュアル「ServerView Operations Manager V5.xx Installation ServerView agents for Windows Server 2003/2008」及び「ServerView Operations Manager V5.xx Installation ServerView agents for Linux SUSE, Red Hat and VMware」—「2.4 SNMP サービスの設定」 ※マニュアル名の「xx」にはバージョン番号が入ります。
--	--	--	--

1.2 名前解決の設定

V5.00 以降では、ブラウザからアクセスする際に、SVOM がインストールされたサーバのホスト名(ネットワーク上のコンピュータ名)を名前解決できるように設定されている必要があります。DNS サーバの設定や、もしくはクライアント側の hosts ファイルにサーバのホスト名と IP アドレスを追加するなどして、ホスト名を名前解決できるように設定してください。

SVOM をインストールしたサーバにおいても、自分自身のホスト名が名前解決できるように設定されている必要があります。

以下の方法で、名前解決が出来ているか確認してください。

・Windows の場合

tracert <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス>
例)

```
tracert svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp
```

・Linux の場合

traceroute <サーバのコンピュータ名>.<DNS サフィックス>
例)

```
traceroute svomserver.psd.cs.fujitsu.co.jp
```

1.3 JRE のインストール

SVOM が動作する為には、サーバ側(SVOM をインストールするサーバ)にも、クライアント側(ウェブブラウザで SVOM を表示する端末)にも、JRE(Java Runtime Environment)をインストールする必要があります。

Windows の場合、それぞれにインストールする JRE は 32bit 版である必要があります。OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。

Linux の場合で SVOM のバージョンが V5.10 以前の場合、それぞれにインストールする JRE は、

Windows の場合と同様に OS が 64bit 版だったとしても、32bit 版の JRE をインストールしてください。SVOM のバージョンが V5.30 以降の場合、OS と同じアーキテクチャ(32bit には 32bit、64bit には 64bit)の JRE をインストールしてください。

▶ Windows

1.4 JRE の設定

JRE(Java Runtime Environment)がバージョン 6 アップデート 19 以降の場合、Java コントロールパネルにて、「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックを入れてください。

SVOM V4.92 では、この項目のチェックをはずす必要がありましたが、バージョン V5.00 以降の SVOM ではチェックを入れてください。

この項目は、デフォルトではチェックが入っています。以下の方法で確認します。

1. コントロールパネルから、Java コントロールパネルを開きます。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「設定」-「Java Plug-in」を開きます。
4. 「次世代の Java Plug-in を有効にする」にチェックが入っていることを確認します。

1.5 リードオンリードメインコントローラへのインストール

リードオンリードメインコントローラ(RODC)への SVOM のインストールは未サポートです。

1.6 Microsoft SQL Server 2000 SP3

SVOM V5.30 以前では、SVOM が使用するデータベースとして、Microsoft SQL Server 2000 及び MSDE がサポートされていますが、SP3 以前がインストールされている環境に、SVOM for Windows をインストールする場合、インストール済みのデータベースエンジンをアップグレードする必要があります。

1.7 監視対象サーバの台数

SVOM が使用するデータベースとして、MSDE 2000 SP4、Microsoft SQL Server 2005 Express および Microsoft SQL Server 2008 Express は、200 台以下のサーバを監視するのに適しています。それ以上の数のサーバを監視する場合、Microsoft SQL Server 2000、または Microsoft SQL Server 2005、Microsoft SQL Server 2008、Microsoft SQL Server 2008 R2 を使用することを推奨します。

1.8 ネットワークポートの設定

Windows Server 2008 の動的ポート割り当て設定で、開始ポートを変更すると SVOM/Agents が使用するポートと競合し、SVOM、Agents が起動出来なくなる場合があります。

開始ポート設定を変更する場合、SVOM/Agents の使用ポートと競合しない様に注意してください。

▶ Linux

1.9 OS 標準添付の PostgreSQL との共存

SVOM がインストールする Postgresql パッケージは、OS 標準添付の PostgreSQL と共に可能です。

1.10 SELINUX

SELINUX が有効な場合、または無効に設定した後でシステムを再起動していない場合は、SVOM for Linux はインストールできません。

1.11 httpd サービス

V5.00 より前のバージョンの SVOM を Linux システムにインストールする場合、httpd サービス (Apache)が動作している必要がありました。V5.00 以降の SVOM では、httpd サービスが動作している必要はありません。

2 インストール

▶ Windows/Linux 共通

2.1 ダウングレード

現在お使いの SVOM を、それよりも古いバージョンにダウングレードする場合、一旦現在インストール済みの SVOM をアンインストールする必要があります。古いバージョンへのダウングレードインストール(上書きインストール)はできません。

▶ Windows

2.2 SQL Server の認証方式

SQL Server のインストール、またはセキュリティパッチ適用で認証方式を設定する場合、認証方式には、Windows 認証を選択してください。SA 認証は選択しないでください。

2.3 ターミナルサービスやリモートデスクトップサービスがインストールされた環境へのインストール

Windows のターミナルサービス(TS)、及びリモートデスクトップサービス(RDS)がインストールされている場合、SVOM は以下の方法でインストールしてください。

1. コマンドプロンプトを開きます。

2. 次のように入力します。

Change user /install

3. SVS DVD 内の"serverview.EXE"が入っているフォルダに移動します。

cd <DVD ドライブ>:\SVSSoftware\Software\ServerView\Windows\ServerView_S2

4. "serverview.EXE" を実行して、SVOM をインストールします。

5. インストールが完了したら、次のように入力します。

Change user /execute

3 アンインストール

▶ Windows/Linux 共通

3.1 パフォーマンスマネージャのレポート設定

パフォーマンスマネージャのレポートを設定したまま SVOM をアンインストールすると、SVOM-Agents 間に設定の差異が生じます。SVOM をアンインストールする前に、必ずレポートの設定を解除してください。

▶ Windows

3.2 アンインストールのキャンセル

アンインストールを行うときに、途中で処理を中断すると、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

▶ Linux

3.3 cron に登録されるジョブ

SVOM をインストールしたときに、cron に自動追加されるジョブは、アンインストールでは削除されない場合があります。

SVOM のアンインストール後、次のコマンドを実行して手動で削除してください。

1 スーパーユーザでログインします。

2 次のコマンドを実行します。

```
# /usr/bin/UninstallServerView.sh
# rm -f /etc/cron.d/pg_CrontabEntry
```

4 サーバリストの管理

▶ Windows/Linux 共通

4.1 サーバ名に使える文字

サーバを登録する時、「サーバ名」を変更することができます。その場合、サーバ名に日本語や、記号（" "# & ~ | ¥ + * ? / ; , など）、空白は使用しないでください。

4.2 マネジメントブレードの登録

マネジメントブレードをサーバリストに登録すると、配下のサーバブレードが監視可能となります。この場合、サーバブレードの IP アドレスはマネジメントブレードから自動的に取得されます。

マネジメントブレードは、サーバブレードに搭載されている LAN ポートを、MAC アドレスの小さい順、かつ、通信可能な順で IP アドレスを認識します。そのため、LAN ポートの状態変化によっては、サーバリスト上の監視 IP アドレスが変動することがあります。

IP アドレスの変動を避けるには、サーバのプロパティのブレードのネットワークアドレス設定でブレードにこのアドレスをいつも使用するにチェックを付け、指定可能なアドレスで監視 IP アドレスを選択して下さい。

4.3 LAN 冗長化を行っている場合の設定

サーバブレードでチーミングなどの LAN 冗長化を行っている場合、マネジメントブレードをサーバリストに登録した際に LAN 冗長化を行っているサーバブレードの IP アドレスが 0.0.0.0 と表示される場合があります。この場合、冗長化を行っているサーバブレードは独立したサーバとしてサーバリストに個別に登録してください。

4.4 サーバリストのエクスポート

サーバリストをエクスポートしたファイルは他サーバでもインポートすることができます。同じバージョンの SVOM であれば、データベースや OS が違っていてもインポートすることができます。

ただし、Linux にインストールされた SVOM へインポートする場合は、Windows (Internet Explorer) で Linux の SVOM へアクセスしてインポートしてください。

エクスポートしたのと同じバージョンの SVOM にのみ、ファイルをインポートすることができます。

▶ Linux

4.5 電源制御実施時の必要パッケージ

V5.30 以前では、サーバリストで右クリックメニューより電源制御を実施する場合、以下のパッケージが必要となります。

`zlib-devel-<Version>.<arch32bit>`

インストールされていない場合は、以下のコマンドを実行してパッケージのインストールを行なってください。

```
# rpm -ivh zlib-devel-<Version>.<arch32bit>.rpm
```

※Intel64 / x86 環境においても上記パッケージが必要となります。

※V5.50 以降では上記パッケージは不要です。

5 アラームモニタ

▶ Windows/Linux 共通

5.1 SNMP バージョン

SVOM は SNMPv1 に準拠したトラップのみをサポートしています。

5.2 サーバ情報

アラームモニタのサーバの情報タブで表示される情報は、サーバリストに登録したサーバの設定情報が表示されます。トラップ情報ではありませんのでご注意ください。

※サーバリストに登録されていないサーバからのトラップの場合、ここで表示されるコミュニティ名は「public」となります。

6 アラーム設定

▶ Windows/Linux 共通

6.1 共通設定

アラーム設定の「共通設定」での設定は、アラームルールとは無関係に動作します。設定によっては同じアラームに対して、イベントログに 2 つのログ書き込みが行われる場合があります。

6.2 SMTP AUTH によるメール送信

メール送信のアクションでは、SMTP AUTH によるメールの送信をサポートしています。

サポートされる認証方式: CRAM MD5 / LOGIN / PLAIN

メール送信時に使用される認証方式は送信先の SMTP サーバが対応している認証方式に応じて自動的に切り替わり、最も安全なものが選択されます。なお、「ユーザ」および「パスワード」欄の入力を省略した場合、認証なしの SMTP で送信されます。

6.3 アラームルール名・アクション名

アラームルール名、及びアクション名には日本語は使えません。

また、アラームルール名に空白を使用することはできません。(例: 「test rule」)

6.4 プログラム実行

アクションの割り当ての「プログラム実行」で利用できるコマンドは CUI コマンドに限られます。

7 サーバデータの詳細表示(シングルシステムビュー)

▶ Windows/Linux 共通

7.1 非サポート項目

機種によってサポートされない表示項目があります。サポートされない表示項目は「N/A」などと表示されます。

7.2 アーカイブデータの取得・出力

シングルシステムビューにおいて、サーバのアーカイブデータを取得及び出力することができます。

アーカイブの取得にかかる時間はサーバによって異なります。サーバによって 1 分以上かかる場合もあります。

7.3 電源投入要因／電源切断要因

電源投入要因／電源切断要因はサーバ本体が保持している要因が表示されます。SVOM や Agents が保持しているものではありません。

7.4 ファン回転率

ファンの回転率はリアルタイムに値が変化するものではなく、ファンテストが行われるまでこの値は変化しません。ファンテストは、サーバ起動時、およびリモートマネジメントコントローラで設定された時刻に行われます。

7.5 ASR の設定

ASR の設定内容は、SVOM/Agents には保持されません。サーバ本体の BIOS／BMC(RSB／iRMC)に格納されます。

8 MIB インテグレータ

▶ Windows/Linux 共通

8.1 ネットワーク機器からのトラップ

ネットワーク機器の MIB ファイルを登録することによって、その機器から送られたトラップの表示および、受信したトラップに対する動作の設定を行うことができます。

尚、あらかじめ対象のネットワーク機器をサーバリストに登録しておく必要があります。登録する際、サーバの種類は「Other」とします。

8.2 トラップの記述形式

MIB に定義される Trap の記述形式は、SMIv1 形式のフォーマット(TRAP-TYPE)である必要があります。

(例) テストトラップの TRAP-TYPE

```
testTrap TRAP-TYPE
ENTERPRISE sniServerMgmt
VARIABLES {
trapServerName,
trapTime
}
DESCRIPTION
""Test trap to verify trap connection."""
--#TYPE "Test trap"
--#SUMMARY "Test trap from server %s (no error)."
--#ARGUMENTS { 0 }
--#SEVERITY INFORMATIONAL
--#TIMEINDEX 1
--#HELP "Note: This is no error condition."
--#HELPTAG
--#STATE OPERATIONAL
 ::= 600
```

8.3 日本語表記を含む MIB ファイル

日本語表記を含む MIB ファイルは未サポートです。

8.4 MIB ファイルの拡張子

登録する MIB のファイル拡張子は「.mib」である必要があります。

8.5 登録した MIB ファイルの削除

登録された MIB ファイルを削除することは未サポートです。

8.6 登録した MIB ファイルの更新

既に登録済みの MIB ファイルを TRAP 追加等の理由により置き換える場合には、登録済みの MIB ファイルと同じ名前で再度登録を行ってください。

その際に、ファイル名(拡張子を含む)の大文字と小文字の違いに注意してください。誤って登録した場合は、新規の MIB として登録されます。

9 パワーモニタ

▶ Windows/Linux 共通

9.1 電力表示対象サーバ

画面左のツリーには監視対象サーバの中で、パワーモニタ機能をサポートするサーバのみが表示されます。

9.2 複数サーバの表示

画面左のツリーから監視対象サーバを複数選択して、同時に電力消費状態を参照することができます。

10 その他

▶ Windows/Linux 共通

10.1 サーバ名および IP アドレス変更後の操作

インストールしたサーバの IP アドレスやホスト名、DNS サフィックスを変更した場合、以下を実行する必要があります。

Windows 環境の場合、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」(Windows 2003 の場合)もしくは「プログラムと機能」(Windows 2008 の場合)で、「Fujitsu ServerView Operations Manager」を選択して、「変更」ボタンをクリックします。修正インストールのダイアログが表示されますので、メッセージに従って操作を行います。尚、ServerView Operations Manager が使用するディレクトリサービスとして、ServerView Operations Manager に同梱の OpenDS(デフォルト)を使用していた場合、修正インストールの「ディレクトリサーバの選択」ダイアログでは、「OpenDS をインストールする」を再度選択してください。使用するディレクトリサービスを変更する場合にのみ「既存のディレクトリサービスを使用する」を選択してください。

Linux 環境の場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/ServerView/Tools/ChangeComputerDetails.sh
```

変更後の設定を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って入力を行ってください。

また、サーバリストに変更前のサーバ名や IP アドレスが監視対象として残ったままとなる場合があります。その場合、SVOM が変更前の IP アドレスへアクセスし続けることになりますので、次の方法で変更前のサーバ名及び IP アドレスの監視エントリを削除してください。

-
1. サーバリストより削除対象のサーバ名を選択し、右クリックします。
 2. メニューから「削除」をクリックします。

10.2 SVOM サービス停止中の注意

バックアップなどの採取により SVOM 関連のサービスを停止している間は、サーバの監視やトラップの受領などが行われません。

10.3 関連ファイルの編集

SVOM/Agents 関連ファイルの編集、追加、削除などは、動作に影響を及ぼす可能性がありますので、マニュアルに記載されている内容以外は一切行わないでください。

▶ Windows

10.4 JRE のアップデート

JRE(Java Runtime Environment)をアップデートする場合、ServerView Operations Manager の以下のサービスを停止してから、JRE のアップデートを行ってください。

以下に記載の順番に、サービスを停止してください:

1. ServerView Services
2. ServerView Download Service
3. ServerView JBoss Application Server 5.1

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください:

1. ServerView JBoss Application Server 5.1
2. ServerView Download Service
3. ServerView Services

10.5 Network Node Managerとの連携

ServerView Suite DVD V10.10.07 以降より、NNM(Network Node Manager)連携モジュールの提供は行っていません。

以降のバージョンにてトラップ連携を行う場合には、利用者作業にてメッセージ変換ファイルの修正/作成を行って下さい。

参考資料情報

- 『HP OpenView ネットワークノードマネージャ ネットワーク管理ガイド』
- 『HP OpenView ネットワークノードマネージャ 登録ファイルガイド』
- 『NNM リファレンスページ』の trapd.conf 項目

ServerView の MIB は、ServerView Suite DVD に格納されている下記 MIB パッケージより入手可能です。

10.6 イベントログのソース名

SVOM が OS のイベントログにログを記録する際のソース名は「ServerView Services」です。ログの種類は全て「アプリケーション」です。

10.7 システムバックアップ

SVOM は常時ファイルの書き換えやデータベースへのアクセスを行っています。システムバックアップ時には、必要に応じて以下の順に SVOM のサービスを停止してください。

1. ServerView Services
2. ServerView Download Service
3. ServerView JBoss Application Server 5.1
4. ServerView Remote Connector
5. SQL Server (SQLSERVERVIEW)
または
MSSQL\$SQLSERVERVIEW

※起動は上記と逆順で行います。

▶ Linux

10.8 cron に登録されるジョブ

定期的にデータのバックアップを行うため次のジョブが cron に登録されます。

ジョブ説明:

Weekly 1 週間(曜日、時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースをバックアップします。

Daily 1 日(時刻はシステム稼働に依存)ごとにデータベースの差分をバックアップします。

これらのジョブを、cron から削除したり、無効にしたりしないでください。動作時刻はシステムの稼働状況に依存します。詳しくは、cron の仕様を確認してください。

バックアップデータは、次のディレクトリ配下に格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/backup

10.9 シスログのソース名

SVOM がシスログ(/var/log/messages)にログを格納する際の、ログの先頭文字列は「ServerView Services:」です。

以上